



宮城県 手森町 伝える努力と 岩手県 青森県 工夫

今年で七回忌を迎えることになった東日本大震災。3月11日は各地で慰霊の行事が執り行われておりました。当時は幼くて、被災の記憶はない子どもたちも小学校に通うようになったでしょう。復興とともに成長してきた子どもたちにも、次の世代に伝えていって欲しいと強く願うばかりです。「伝える努力と工夫」を、お地藏さんの形で届けてまいります。よろしくお祈りします。
(岩手・青森担当 木村尚徳)

福島県 アプローチが 今後の課題

報道でご承知の通り、平成29年4月から避難区域の指定解除があり、住民感情にもまた新たな変化を感じているところがあります。自主避難者も全県下でいまだに約7万7千人。国の施策がある意味一つの区切りと捉えられたことから、住民にとっての窓口である市町村も煩雑さがまわっているようです。これらの状況を踏まえて、お地藏さん建立へのアプローチを今後どのように考えればいいのか苦慮しているところではあります。
(福島担当 佐藤靖之)

宮城県 活動報告

平成29年3月11日、震災から6年目のこの日に七ヶ浜町菖蒲田浜海水浴場入口付近に宮城県6基目の「お地藏さん」を建立いたしました(本編にて詳細報告)。また4月12日に七ヶ浜町内「お地藏さん」譲渡式を行い、七ヶ浜町からは伊丹実行委員長・渡辺町議・伊丹事務局長、当法人からは米本事務局長・柴田が参加し、譲渡調印式を無事終了致しました。
今後について：訪問予定地と



覚書を交わす伊丹実行委員長(左)と米本事務局長

して、気仙沼市、南三陸町に重点をおいて活動してまいります。建立時期はまだ決定していません。
(宮城担当 柴田・近野)

「宮城県七ヶ浜町」

平成29年3月11日、東日本大震災命日の今日、宮城県七ヶ浜町菖蒲田浜に9基目のお地藏さんを建立いたしました。
毎年この日は「宮城鎮魂の日」として県内各地で慰霊祭が営まれます。七ヶ浜町でも発生時間の午後2時46分に合わせて町主

催の式典が挙行されましたが、これに先立ち建立地の菖蒲田浜にて寺澤薫町長、大町睦夫町議会議長など復興への道筋を先導される町の重鎮の方々のご列席を得て、建立除幕式を執り行いました。
菖蒲田浜は景勝地「松島」を



海の安寧と浜の安全を願った建立除幕式

寄付金のお願い

銀行口座 楽天銀行 第一営業支店 普通預金 7152474
口座名 特定非営利活動法人 被災地に届けたいお地藏さんプロジェクト
郵便振替 口座番号 02250-0-118523
口座名義 被災地に届けたいお地藏さんプロジェクト

編集後記

2012年10月から発行しているこの広報誌も10号を数えるに至りました。活動内容をお伝えしようと始めたものですが、その時々を書き留めていたため、当プロジェクトにとっても大事な「記録誌」となっており、見るたびにそのときの記憶がよみがえります。震災から6年目となり、3月11日には9基目となるお地藏さんを宮城県七ヶ浜町に建立することができました。復興はまだまだこれからですが、このお地藏さんも地域のみならず心の拠りどころとなってくれればと願うばかりです。ご協力いただきました皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございます。

被災地に届けたい「お地藏さんプロジェクト」に参加して

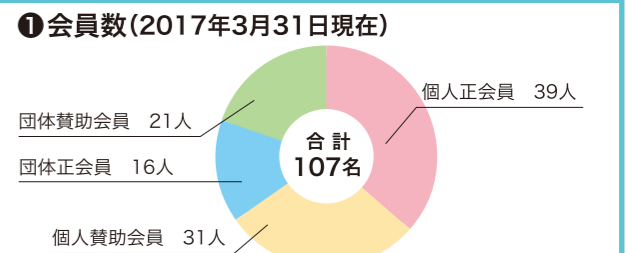
2013年3月9日石巻市南浜地区に1基目のお地藏さんを建立された際、私共の団体に声掛けをいただき炊き出しのお手伝いを致しました。以来お相手大槌、宮城県名取、そして震災から6年目の3月11日、宮城県七ヶ浜町での建立にも立ち会う事が出来ました。建立までに費やす地元との調整が、被災された皆さんとの深い絆につながっているのを感じました。そして、全てを失った場所に立つお地藏さんに手を合わせる姿を見た時、プロジェクトの素晴らしさを実感しました。私共の支援団体の



遠藤団長(左)と佐藤さん

活動は、少しでも寄り添う事が出来ればと思いついていますが、形に残すことは出来ません。お地藏さんプロジェクトは、支援の形を残し、皆さんの心の拠り所になっています。今後の展開に大いに期待しております。
国境なき奉仕団東北地区チーム山形 東日本大震災災害復興支援団 団長 遠藤正明

会員数と寄付金のご報告



② 寄付総額(2017年3月31日現在)
¥21,438,521



海辺に住む人々の暮らしの知恵の中には、豊潤な海から得る糧への感謝の仕方や怒る海への対処の仕方があって代々語り継がれています。各地で建造されている壮大な防潮堤は、海の姿と人間の営みが相互に見えなくなる、知恵のやり取りができなくなるのではと心のどこかで思っておりまして。「現実には人や家を失ってみっどさあ若者さこの苦しみを繰り返させてなんねって気持ちになんのか」。絆親睦会で、提供した山形のソウルフード「芋煮」を食べながら、笑顔で振り返るまでになった6年間の道程の辛さ、厳しさを改めて感じた次第です。

(文・広報担当 小田嶋豊)

七ヶ浜の風によせて…

水難者供養塔と共に菖蒲田浜の安全を願う

宮城県
七ヶ浜町
2017
3/11



速藤団長と佐藤さん、「芋煮」の仕上げに真剣！



山形の芋煮はしょう油味



浜風の冷たい日、暑い芋煮が腹にしみました！



再建された水難者供養塔



穏やかな海風に揺れる松、いつまでも続けとお地藏さん



ふりかえりと未来に手を合わせる皆さん



東日本大震災から6年という節目を迎えた3月11日、宮城県七ヶ浜町菖蒲田浜地区で、宮城県内では6基目、被災地では9基目となるお地藏さんと、併せて水難者追善供養之碑の建立除幕式が行われました。水難者供養碑は、地元の方と町観光協会の協力で、昭和53年に建立されましたが、大震災の津波で破損したため、このたび新たに高さ1.5mの供養塔が再建されました。

午前11時から始まった除幕式では、最初に震災犠牲者と水難者追悼の黙とうを捧げ、冥福をお祈りしました。式典には、寺沢薫町長、大町睦夫町議会議長、伊丹貫一代表区長など、建立にご尽力いただいた方々にも出席いただきました。関係者の方々は、水難者追善供養之碑が新たに再建された安堵感と、お地藏さんの建立で、海難防止と安らぎを与えてくれる場所ができたことを語っておられました。

除幕式終了後は、会場を菖蒲田浜地区避難所に移し、絆親睦会が開催されました。昼時の会場では国境なき奉仕団チーム山形がつくった芋煮が振舞われました。初めて山形の芋煮を食された方も、宮城風芋煮との違いを楽しまれたようです。こうした被災地の方々の絆も、お地藏さんにいただいたご縁として、今後の建立活動の力に変えていきたいと思えます。